

バプテスト福祉デー 趣意書 「共に生きる」

日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会 担当：キリスト者奉仕会 理事長 叶義文

1. はじめに

日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会は日本バプテスト連盟に所属し、幼児保育、高齢者福祉、障がい者福祉に取り組む6つの社会福祉法人で構成されています。当協議会が第1回目の夏期職員研修会を行ったのは1984年ですから今から40年前のことです。毎年8月に行う夏期職員研修会は、バプテストにつながる施設で働く職員が年1回集まり、キリスト教を基盤とした社会福祉施設として、何を大切にしていくのかを語り合う貴重な場です。

また、1996年第47回連盟定期総会で「バプテスト社会福祉デー」の設置が決議されて、11月第2日曜日が「バプテスト福祉デー」として位置づけられて以来、今年で28年目を迎えました。

2. 日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会の構成法人（施設）

- ①バプテストめぐみ会（特別養護老人ホーム、保育園など）
- ②しんもり福祉会（保育園など）
- ③バプテスト心身障害児(者)を守る会（重症心身障害児者施設など）
- ④相愛会（保育園など）
- ⑤福岡白百合会（特別養護老人ホームなど）
- ⑥キリスト者奉仕会（障害者支援施設など）

3. 優生思想とは

2024年7月、旧優生保護法の下で不妊手術を強制された人たちが国を訴えた裁判で、最高裁判所は旧優生保護法は憲法違反だとして、国に損害賠償を命じる判決が示されました。旧優生保護法とは、身体、知的、精神障がいなどを理由に、本人の同意がなくても強制的に不妊手術を行うことを認めていた法律です。条文には「不良な子孫の発生を防止する」と明記されていました。この間不妊手術をさせられた人は、およそ25,000人にも上るとされています。子どもを産みたいという気持ちが踏みにじられただけではなく、障がいそのものを否定するものに他なりません。8年前に相模原市の障がい者施設「津久井やまゆり園」で起きた事件を思い出します。当時26歳の男が、障がいのある19人を殺害し、26人に重軽傷を負わせた事件です。「障がい者は不幸を作ることしかできない」、「障がい者はいなくなればいい」と障がい者の存在そのものを否定するものでした。

優生思想とは、人を優れた人と劣った人と位置付け、劣った人は生きていく価値がないとする価値観です。私たちは、人に優劣をつけるのではなく、誰もが神によって生かされている「かけがえのない存在」として、尊重し合うことを実践し、発信していくことが求められているのです。

4. おわりに

世の中にはいろいろな人たちが生きています。目が見えない人、耳が聞こえない人、車いすの人、子ども、高齢者、肌の色が違う人、性的マイノリティーの人、病気の人、引きこもりの人など、時にその少数者の人たちが、差別、抑圧され、軽んじられます。

本年4月より、公的機関だけではなく、民間事業所も障がいのある人が社会で平等に生きていくための「合理的配慮」をすることが、法的に義務付けられました。様々な障がいがある人が他の者と平等に生きていくための様々なバリアを取り除くことです。もちろん教会にも求められます。

「バプテスト福祉デー」を迎えて、子どもも高齢者も障がいがある人もない人も、誰もが差別されず、「共に生きる」ことの意味を共に語り合い、議論できる時となることを願います。

【連絡先・問い合わせ先】

社会福祉法人キリスト者奉仕会 大牟田恵愛園、ワークセンター、たんぽぽ、ハーツ、つくしんぼ

◆住所 〒836-0895 福岡県大牟田市新勝立町3丁目5-15

◆電話 0944-51-8750 ◆FAX 0944-51-8749 ◆ホームページ <https://www.shaho-keiai.jp>



共に生きる

2024 11,10 日

バプテスト福祉デー



日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会

バプテストめぐみ会

しんもり福祉会

バプテスト心身障害児(者)を守る会

キリスト者奉仕会

福岡白百合会

相愛会